

オオジュリン（ホオジロ科） 全長16センチ

3月下旬、大浦沿岸の枯れた葦原でオオジュリンが飛び交っていた。

毎年この季節と晩秋に飛来することから、今かいまかと待っていたところでした。動きは活発です。ヨシからヨシへと移動するもの、地上に降り枯葉をかき分け餌を探しているものなど、一時も動きを止めてくれません。

まだ冬の装いであり、オスの頭部は黒っぽい斑点で囲われています。猛禽類が上空を横切ると、50羽ほどが一斉に飛び上がった。横たわるヨシの莖に紛れてよくわからなかったが、こんなにも隠れていたんだ。



オスの羽はまだ冬羽で、頭には黒い斑模様が見えます。

そういえば、かつてこの場所で、脚に金属の標識が付いていたオオジュリンを撮影したことを思い出しました。

それは2006年4月の記録にありました。オスの右脚にはアルミの標識がついています。何か数字のようなものが書かれていますが、あまりに小さくて判別できません。これは、当時の山階鳥類研究所が装着したものでしょう。



右がオス、左がメス。違いがよく分かります。



2006年4月撮影。右脚には金属製の足環が装着されています。

直ぐ関係機関に連絡すれば良かったでしょうが、当時はあまり考えずにそのままにしていました。12年も前の記録として今も残っているだけです。



アップで見ても文字は判別されませんでした。



メス。ホオジロ科は似たような模様が多く、判別に迷います。